



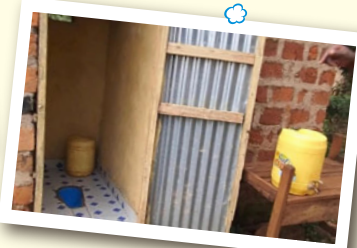
## カモロ村 レポート トイレが変わった! 村が変わった!

気持ちよく使える  
安心トイレ  
“Smile Toilet”

before 村人の半数以上がトイレを使えなかった…

after

- ★ 村人の**97%**がトイレを使えるようになった
- ★ 周知活動により県が2つの**公衆トイレ**を設置
- ★ 野外での排泄が減り、**環境が改善**
- ★ 石鹸付きの手洗い場の普及率が31%から**61%に上昇**、**下痢30%削減**



## 事業担当者からのメッセージ

プロジェクトを実施しているホームベイ県は、トイレの普及率が低く、トイレがあっても、屋根がない、足場が不安定、悪臭などの理由により使われていないケースも多いです。私も何度か使いましたが、このようなトイレなら草むらや川での野外排泄の方がましだと考える村人の気持ちが分かりました。しかし、野外排泄は下痢や感染症、環境汚染等を引き起こし、コミュニティの発展が阻害されます。安心して使える清潔なトイレを各家庭に設置していくことで、地域社会のより良い発展を促していきたいと思います。

ある村人からこれは気持ちよく使えるトイレ“Smile Toilet”だと言われたのは、とても嬉しかったです。2018年10月から、5つの村においてトイレ建設が始まっています。現地協力団体SAWA YUME KENYAや保健省等と協力しながら、野外排泄ゼロを目指します。みなさまの引き続きのご支援よろしくお願いいたします。



## Javan Okello氏からのメッセージ



日本のみなさん、こんにちは。ジャパン・オケロです。

衛生環境というのは、人間の健康や尊厳を守り、人が生活していく上で、とても重要です。また、健康であれば学校に行けますし、安定して働くこともでき、地域経済とともにコミュニティが発展します。しかし、今世界では約 25 億人の人がトイレにアクセスできず、コレラなどの感染症や下痢により、多くの人が、特に 5 歳以下の幼児が命を落としています。

ケニアにおいても、トイレにアクセスできる人は限られており、地方ではわずか 32% です。日本のみなさんにとってのトイレは、水洗式で、ウォシュレットなどの機能付きで、いつでも使えるものですが、ケニアでは全く違います。プライバシーが保たれていなく、悪臭、たくさんの蠅、茂みに隠れたり、薄暗くなるまで待ちたりする、そんな日常を想像できるでしょうか。

スマイルトイレプロジェクトを通して、トイレが各家庭に設置されることで、誰でも好きな時にトイレを使うようになります。今年の6月からホームベイ県の5つの村で実施していますが、約23%の家にトイレがなく、手洗い場がない家は 74%の状況でした。しかし、ワークショップやトイレ建設技術指導により、トイレがない世帯は 12%に下がり、その内の半数近くが現在建設中になりました。 トイレには、日本の LIXIL が開発した便器が使われています。

日本のみなさんのご支援ご協力のおかげで、トイレが設置され、衛生環境が改善だけでなく、乳幼児の死亡率の削減、学校の出席率の向上などの地域発展につながっています。本当にありがとうございます。これからもみなさまのご支援よろしくお願い致します。

楽しく学べる  
教材づくりに  
取り組んでいます！

今年度から始まったラオスの環境教育プロジェクトでは、地域の中学生在がより自然環境と自分たちの生活の関わりを学ぶことができる教育プログラム作りを行っています。プログラム作りやワークショップの実施には、中学校の先生達だけでなく、ルアンパバン農業大学の教員や学生達が関わっています。

プロジェクトに参加する地域の大学生たちが、中学生を指導していくことで、地域で環境保全活動の取り組みがさらに進んでいくことが期待されます。

## 現地からの声 ルアンパバン農業大学スタッフ Phonevilay Soukky氏

このプロジェクトは、地域の若者たち、特に大学生にとって、新たな経験を積むとても良い機会となっています。若者にとって大切なのは、教室で勉強するだけでなく、自分にとって身近な環境問題について、しっかりと考え、相手に伝えていくことだと思います。

私たちの取り組みの大きなポイントは、環境問題という難しいトピックを、ゲームなどを通して、子どもたちが楽しく学べるように工夫していることです。ラオスでは、現在、さまざまな環境問題がおきています。本来降るべき時に雨が降らない一方で、洪水や土砂災害が頻発するようになりました。普通、授業という、大変だったり、つまらなかったりしますが、子どもたちが、環境問題を深く理解するためには、ゲームや漫画などの教材はとても良いと思います。地域に環境教育がしっかりと根付いていくよう、みんなで丸となって取り組みを進めて行きたいです。

7月に発生した西日本豪雨の復興支援を、倉敷市の男女共同参画課を通じて実施しました。今回も、現地から寄せられた声を元に、女性と子どものケアに焦点を当て、女性や子ども用の下着計400着、防災ブザー200個を届けました。また、大和証券からのご協力を得て、フリースブランケットを300枚届けました。

## 現地からの声 倉敷市役所 男女共同参画課 大田 富美子さん

この度の西日本豪雨災害に際し、いち早く女性や子どもの下着等を御支援いただき心より御礼申し上げます。被災者からは「自分に合うサイズの下着がなく困っていた。有難い。」「避難所生活で皆が手一杯の状況の中、言い出せなかったのが嬉しい。」といった声をいただきました。下着に限らず、避難所では女性のための更衣室やトイレ、洗濯物干し場など、女性特有のニーズがありますが、混乱の中、その切実な要望は後回しにされがちです。今回、避難所を回る中で、これらの要望を汲み取り実現することが、避難所生活を支えるうえでも復興を進めるうえでも重要なことだと痛感しました。この経験を生かし、今後の復興・防災に多様な視点を反映させていきたいと思っています。本当に有難うございました。

言い出せ  
なかったのが  
嬉しいです！